

* 曲線自在定規収蔵

筆者が若い頃は、観測データなどを図に書く際、セクションペーパーに横軸、縦軸を取り鉛筆でプロットしていたものである。そのプロットに沿って曲線を引くための自在定規(写真1)というものがあつた。



写真1 曲線自在定規

今では、パソコンにX、Yを2列に入力してやれば、エクセルなどというソフトであつという間にきれいなグラフが出てくるが、このような曲線自在定規などというものを使っていた時代もあつたのである。

この定規は、複雑な形状をしており、全長は50cmで、直径4mmほどの鉛の棒に沿って、薄い鋼板が沿わせてあり、その逆の面に線を引くプラスチック面がある。そして両端には10mm角、長さ55mmばかりの箱状のものが着いており、曲線の具合で曲線定規に逃げの余裕を持たせている。そして定規面に鉛棒と鋼の薄板を沿わせておく支えがほぼ15mm間隔で着いている(写真2)。



写真2 曲線自在定規の先端を拡大したところ

曲線自在定規は、ADJUSTABLE CURVE RULERSというらしい (写真3)。



写真3 箱にはこのように書かれている

日本語表記もあるが、SOLD BY ALL LEADING DEALERS IN DRAWING INSTRUMENTSとも書かれているので輸入品かもしれない。

TRADE MARKもある (写真4)。



写真4 TRADE MARK

かつては観測天文学者には便利な文房具であった。